

# ふるさとへぐり再発見

はに  
埴 輪

17



埴輪は古墳時代に作られた焼物で、筒状をした円筒埴輪と物の形を表現した形象埴輪に分類されます。

前者には、普通の円筒埴輪と上部が朝顔の花のように開いた朝顔形埴輪があります。

後者には、人物、動物(馬、鹿、犬、猿、猪など)家、武具、蓋きぬがさがた形など様々なものがあります。

埴輪の起源には相撲の話で有名な野見宿禰のみのすくねが御陵の殉死者の代わりに人物埴輪を作った話が有名です。

しかし、考古学的には円筒埴輪が古く、しばらくしてから形象埴輪が出現することが確認されています。

平群谷では大塚山、大ノ山、勢野茶臼山、剣上塚、烏土塚等で使用されており、円筒埴輪の他、形象埴輪も数例知られています。

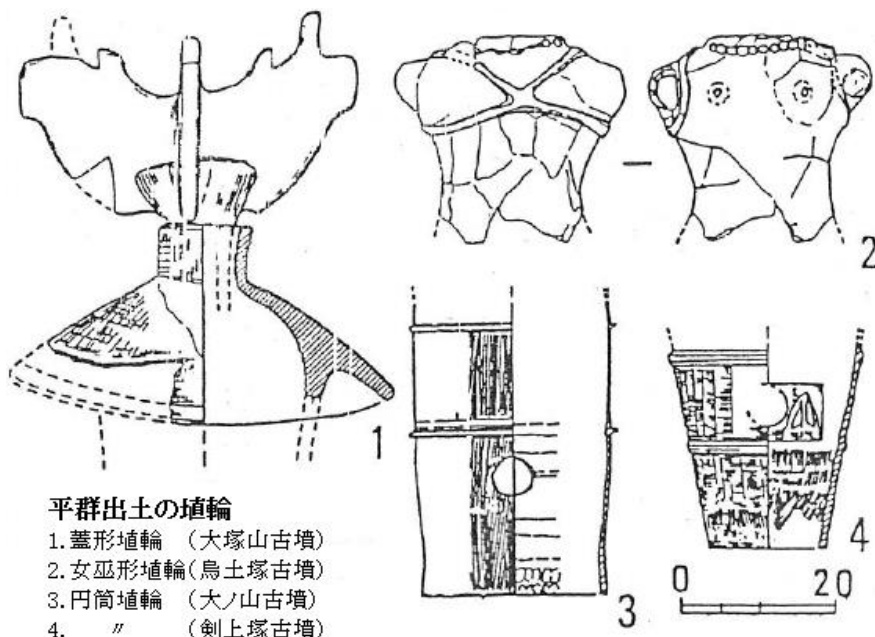
剣上塚や上山では円筒埴輪を並べた埴輪列の存在がわかっており大ノ山も同様だった可能性があります。

勢野茶臼山や烏土塚でも羨道外側の前庭部を中心に形象埴輪がまとまって出土しており、石室の前での墓前祭祀の状況が明らかになっています。

ここではみこ巫女の埴輪や家、武具状の形象埴輪が出土しています。

このような状況が確認されるのは珍しく、従来主体部を中心に埴輪を取り巻くように埴輪が樹立されていたものが、石室部分に移る例として貴重なものです。

烏土塚での埴輪使用は、奈良県で最も新しい段階(6世紀後半頃)に位置づけられ、平群谷地域では埴輪の利用が遅くまで残ることが特徴となっています。



平群出土の埴輪

1. 蓋形埴輪 (大塚山古墳)
2. 女巫形埴輪(烏土塚古墳)
3. 円筒埴輪 (大ノ山古墳)
4. " (剣上塚古墳)